ChatGPT

旭化成によるPatlytics活用に関する調査報告書

エグゼクティブサマリー

本調査の結論を先に述べると、**「旭化成がPatlyticsを活用している」こと自体は、Patlytics側の一次情報によって公開確認できる**一方、**旭化成側の公式ニュース／プレスリリースでPatlytics名を明示した発表は、本調査で確認した公開範囲では見当たらなかった**、というのが最も妥当な整理です。確認できた一次情報の中核は、Patlytics公式の顧客事例ページ、Patlytics公式LinkedIn投稿、そしてPatlyticsの2026年Series B発表（Business Wire配信）です。これらはいずれも、旭化成がPatlyticsを用いて特許ワークフロー、特に**侵害調査（infringement investigation / evidence of use）**を高速化していることを示しています。旭化成側では、知財部門・知財インテリジェンス・DX・生成AI活用を重視する公式資料が豊富であり、Patlytics導入はその延長線上に位置づけるのが自然です。 1

公開情報から確認できる導入対象は、旭化成の**Corporate IP division 内の Strategic Licensing Group**を中心とする知財実務です。Patlytics顧客事例では、同グループの堀直人氏が、潜在的侵害製品の特定、技術開示の確認、evidence of use の組成を担当していること、そして調査対象が**機械系・化学系の双方**に及ぶことが示されています。したがって、公開確認できる導入の主目的は、R&D支援やマーケティングよりも、**知財・ライセンス・権利行使判断を支える調査と分析の高度化**です。もっとも、旭化成自身は公式に、知財部門での生成AI普及や、全社の無形資産活用・新規用途探索・競争力強化を強く推進しており、Patlytics導入はこの広いAI活用方針と整合的です。 2

期待効果としては、Patlytics側の事例が最も具体的で、**「数日〜数か月」かかっていた侵害調査が「数時間」に短縮**されたこと、さらに**1件の detection report あたり最低1,000〜5,000米ドルの節約**があったとされています。ただし、これらはベンダー／顧客事例ベースの公表値であり、第三者監査済みKPIではありません。公開範囲で確認できる限り、Patlyticsは旭化成向けに、社内で独自に得た製品特徴情報も追加投入できる柔軟な調査フロー、クロスジャーリスディクション対応、企業向けセキュリティ要件への適合を提供しているとみられます。 3

導入形態については、**Patlyticsの公開情報はクラウド前提のSaaS型を強く示唆**しています。Patlyticsは自社のセキュリティページで、secure cloud platforms、SOC 2 Type 2、ISO 27001、ISO 42001、保存時・転送時暗号化、顧客データ分離、90日履歴保持・削除可能、顧客データをモデル学習に使わない方針を明示しています。一方で、**旭化成向けにオンプレミス導入であったこと、あるいは既存IPMS／ドケッティング／文書管理システムの具体名**は公開されていません。日本語対応については、Patlytics関係者のLinkedIn投稿で、**日本語でのドラフティング・分析機能**や、日本市場向けサポート体制が言及されています。 4

契約・費用については、**契約額、利用席数、契約期間、PoCから本番への移行条件、導入支援費、SLA**などの具体的な公開情報は確認できませんでした。Patlytics公式サイト上の公開導線はデモ依頼中心で、旭化成案件に限らず、標準価格表の公開は確認しにくい構成です。したがって、費用面について本報告で確定的に言えるのは、**公開されているのは効果指標のみで、価格条件は非公開**という点です。 5

今後の展望としては、Patlytics事例自身が**「additional modules の検討」**に触れており、2026年のSeries B発表では、共有ワークスペース、AIエージェント、chem-bio領域の強化がロードマップとして明示されています。旭化成はマテリアル・ヘルスケア・住宅の多領域企業であり、知財報告書でもIPランドスケープ、DX関連特許、生成AI活用、経営判断への知財情報結合を推進しているため、公開情報だけでも、Patlytics活用が**侵害調査ツールから、より広い特許ライフサイクル支援へ拡張される余地**は大きいと考えられます。もっと

も、現時点で実証的に確認できるコアユースケースは依然として**侵害調査・evidence of use・ライセンス／権利行使判断支援**です。 6

調査の前提と総合評価

本調査では、優先順位を**一次情報**に置き、具体的には旭化成公式サイト（知財、DX、ニュース、IR資料）、Patlytics公式サイト（顧客事例、製品、セキュリティ、ニュース）、両社関連のプレスリリース、Business Wire / PR Newswire 等の配信原文、そしてLinkedIn上の公式・準公式投稿を中心に確認しました。補足的に、TechCrunch、LawSites、Business Insider、N47などの業界・投資家・法務テック系媒体も参照しました。J-PlatPatとGoogle Patentsは、**本件と直接ひも付く共同特許やPatlytics名義の公開特許の有無**を確認する目的で重点的に見ましたが、今回の公開レビューでは、両社連名の共同出願・共同論文を確認できませんでした。Scopusについては完全な商用検索環境をこの場で再現できないため、一般Web検索経由の断片確認に留めています。 7

総合評価としては、公開情報の強さを以下のように整理できます。**導入の存在**は比較的強く、Patlytics側一次情報で確認可能です。**利用部門**もかなり明確で、Corporate IP division の Strategic Licensing Group が核です。**利用目的**も強く、侵害調査の高速化と意思決定支援に収斂しています。逆に、**契約条件・費用・厳密なシステム構成・ユーザー数・データ保存場所・他システム連携先**は弱く、公開情報では確認できません。したがって、この案件は「導入事実とユースケースは確認できるが、商流とアーキテクチャの詳細は未公開」というタイプの事例と位置づけるのが適切です。 8

旭化成側の公式資料を横断すると、Patlyticsの件が単独で公表されていなくても、**知財・DX・生成AIを経営課題と結びつけて扱う素地**が非常に強いことが分かります。旭化成の知財組織は、研究・開発本部配下の知的財産部と、経営企画担当役員直下の知財インテリジェンス室の二本柱で構成され、IPランドスケープを通じて経営・事業戦略形成に関与しています。2025年の知財報告書でも、知財部員や知財アナリストへの生成AI普及が公式に言及されており、Patlyticsを含むAIツール導入の受容性は高い組織文化にあるとみてよいでしょう。 9

主要一次情報URL

```
https://www.asahi-kasei.com/jp/innovation/intellectual-asset
https://www.asahi-kasei.com/jp/innovation/dx
https://www.asahi-kasei.com/jp/news/2024/ze241209
https://www.patlytics.ai/customer-stories/asahi-kasei
https://www.patlytics.ai/security
https://www.businesswire.com/news/home/20260408770722/en/Patlytics-Raises-%2440-Million-
Series-B-to-Expand-the-AI-Platform-Purpose-Built-for-IP-Work
```

導入の事実確認と公開時系列

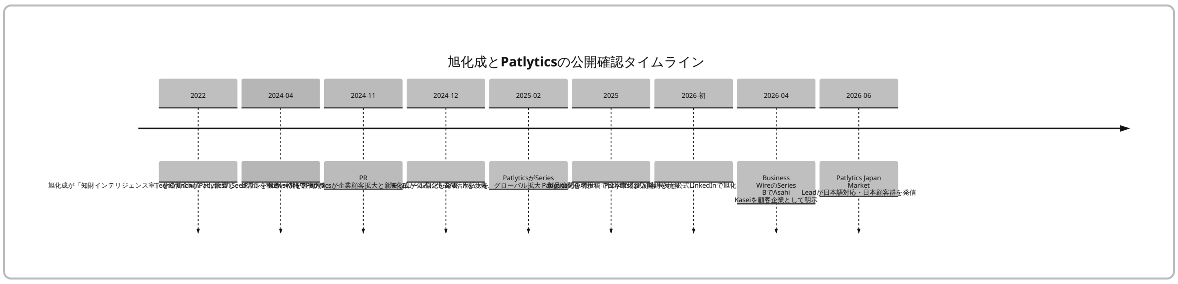
まず、**導入の事実確認**です。Patlytics公式の顧客事例ページは、表題で明確に「**How Asahi Kasei Reduced Infringement Investigation Time from Months to Hours**」と掲げ、本文でも「Asahi Kasei implemented Patlytics」と記しています。さらに、Patlyticsの公式LinkedIn投稿でも「Asahi Kasei has partnered with Patlytics」と明言されています。加えて、2026年4月のPatlytics Series B発表では、Asahi KaseiがPatlyticsを信頼する企業の一つとして本文中に列挙されています。したがって、**Patlytics側の公開一次情報だけでも、旭化成がPatlytics顧客であることは確認可能**です。 10

一方で、**旭化成側の公式発表の有無**については慎重に言う必要があります。本調査で確認した旭化成のニュースアーカイブ、知的財産組織ページ、DXページ、知財報告書、無形資産戦略説明資料には、Patlytics名の明示は見当たりませんでした。したがって、現時点の公開情報整理としては、**「導入の公式確認はPatlytics側にあるが、旭化成側での名指し発表は少なくとも今回確認した公開資料にはない」**という表現がもっとも正確です。 11

導入時期は、公開情報だけでは**厳密な契約締結日や本稼働日を確定できません。**ただし、Patlyticsの日本市場参入は、Patlytics Japan Market Lead のLinkedIn投稿によれば**2025年に始まった**とされます。また、Patlyticsの公式LinkedIn投稿と顧客事例への複数の言及は、2026年7月時点でLinkedIn上「6mo」と表示されているため、**少なくとも公開化は2026年初ごろ**とみるのが自然です。さらに、2026年4月のSeries B発表時点でAsahi Kaseiが本文中に顧客として明示されているため、**遅くとも2026年4月以前に対外的な顧客認識が成立していた**ことは確かです。 12

公開情報上の対象部門は、**Corporate IP division の Strategic Licensing Group**です。Patlytics顧客事例は、堀直人氏を同グループのGeneral Manager と紹介し、その業務として侵害可能性のある製品探索、技術開示の確認、evidence of use の収集を挙げています。旭化成の公式知財ページでは、知財部が本社部門の一極集中型組織として各事業部を横断的に支援するとされており、この案件は一事業会社単位というより、**全社横断のCorporate IP機能に近い導入**と読むのが妥当です。ただし、**住宅・ヘルスケア・マテリアルのどの事業ユニットが直接ユーザーか**までは公開情報で特定できません。 13

> 短い抜粋: “Before using Patlytics, our infringement searches took several days, sometimes even months.”
> これは、導入前の課題が侵害調査の長期化だったことを端的に示す公表文言です。 14



公式発表／報道／特許／SNSの時系列比較表

時期	公式発表	報道	特許	SNS	読み取り
2022年	旭化成が知財インテリジェンス室を設置し、IPLを経営戦略に接続。DXと知財の統合強化。 15				Patlytics以前から、知財分析・経営接続の成熟度が高い。
2024年4月		TechCrunchがPatlyticsを「AI-powered patent analytics platform」と報道。 16			Patlyticsは当初から知財特化AIとして市場認知。

時期	公式発表	報道	特許	SNS	読み取り
2024年11月	PR Newswire配信でPatlyticsが顧客拡大、新機能、80%効率化などを訴求。 [17]				旭化成案件公開前に、企業導入を拡大していた。
2024年12月	旭化成が公式に生成AI活用開始を発表。新規用途探索・リスク低減・全社展開を明示。 [18]				Patlytics導入を受け入れやすい全社方針が先に形成。
2025年2月	PatlyticsがSeries Aを公表。製品強化、グローバル拡大、Workspace collaboration を明示。 [19]	LawSitesが大型資金調達を報道。 [20]			Patlyticsの企業実装体制が強化される時期。
2025年			本調査では、旭化成×Patlyticsの共同出願・共同特許の公開確認なし。	Patlytics関係者が「Japan market entry in 2025」と投稿。 [21]	日本導入の地ならしは2025年に始まった可能性。
2026年初ごろ	Patlytics顧客事例で旭化成事例を公開。 [14]		本調査では、本件と直結する公開特許・論文を確認できず。	Patlytics公式LinkedInが提携を明言。Paul Leeも投稿。 [22]	公開確認の基点はPatlytics側。
2026年4月	Business WireのSeries BでAsahi Kaseiを顧客名として本文明記。 [23]				遅くともこの時点で外部説明可能な顧客実績。
2026年6月				Patlytics Japan Market Lead が、旭化成を含む日本顧客群、日本語分析・起案対応を発信。 [21]	ローカライズと日本展開の進行を示唆。

時期	公式発表	報道	特許	SNS	読み取り
2026年7月時点	旭化成公式サイト上の公開確認は、知財・DX・生成AI方針まで。Patlytics名の明示は本調査範囲で未確認。 24	Business Insider が Patlytics を注目リーガルAI企業に選定。 25	本件直結の共同特許・共同論文は今回の検索範囲で未確認。		市場評価は強いが、旭化成案件の公開は依然ベンダー主導。

主要一次情報URL

```
https://www.patlytics.ai/customer-stories/asahi-kasei
https://www.linkedin.com/posts/patlytics_we-are-proud-to-share-that-asahi-kasei-has-activity-7414770700973957120-NXsg
https://www.businesswire.com/news/home/20260408770722/en/Patlytics-Raises-%2440-Million-Series-B-to-Expand-the-AI-Platform-Purpose-Built-for-IP-Work
https://www.asahi-kasei.com/jp/innovation/intellectual-asset
https://www.asahi-kasei.com/jp/news/2024/ze241209
```

導入目的と利用範囲

公開情報で最も明瞭なのは、**導入目的が侵害調査ワークフローの刷新**にあることです。Patlyticsの顧客事例は、導入前の旭化成における侵害検知が、公開情報の手作業検索、クロスリファレンス、反復レビューに大きく依存し、案件によっては数か月を要していたと説明しています。導入後は、特許を入力すると、潜在的侵害製品を抽出し、**element-by-element / claim-by-claim のマッピング**を生成できる点が評価されました。つまり、Patlyticsは単なる検索補助ではなく、**特許クレームと製品特徴を突き合わせる分析支援基盤**として導入されたとみるべきです。 26

対象業務は、少なくとも公開確認できる範囲では、**侵害可能性のあるターゲット製品・企業の発見、evidence of useの整理、権利行使／防御判断のための材料収集**です。Patlyticsの公式LinkedInでも、成果として「Faster, more confident IP decisions across Japan and Asia」が強調されており、成果指標は研究開発やマーケティングの生産性ではなく、**IP判断のスピードと確信度**に置かれています。公開情報だけからは、Patlyticsが旭化成の研究テーマ探索、明細書起案、ポートフォリオ剪定、マーケ部門分析に本番利用されているとは断定できません。 27

ただし、**利用範囲が侵害調査だけで固定されているわけでもありません。**顧客事例は、旭化成が「starting with a focus on the platform's infringement detection capabilities」としつつ、その後「other platform modules」へ広げている、あるいは「continues exploring additional modules」としています。Patlytics自体も、侵害分析、無効化、FTO、起案、発明開示、ポートフォリオ分析までを一つのプラットフォームで扱う構想を公式に示しています。したがって、**公開確認済みの本番ユースケースは侵害調査中心だが、周辺モジュール拡張の余地はすでに示されている**、という整理になります。 28

旭化成側の公式資料との整合を見ると、この導入は偶発的ではありません。旭化成は知財報告書で、知財インテリジェンス室が**知財情報を経営判断や事業戦略に直結させる高度な分析**を担うと説明し、社内外の技術・市場データを融合した戦略提案を推進しています。さらに、知財部員や知財アナリストへの生成AI普及を公式に掲げています。これは、Patlyticsが担う**知財データ・製品情報・市場情報を横断した分析**と非常に相性がよく、導入目的を「単なる調査時間短縮」より広く、**知財起点の戦略判断を高頻度化する試み**とみることも可能です。もっとも、この後段は旭化成の公式IP方針とPatlyticsの機能構成からの**推論**であり、Patlytics事例そのものが明示しているのは侵害調査中心です。 29

図示資料からも、旭化成がR&D・知財・DXを一体で扱っていることは明らかです。無形資産戦略説明会の資料では、**R&D・知財・DX戦略**が一つの章で扱われ、生成AIが「無形資産活用を加速」する位置づけにあります。したがって、Patlyticsが現在はCorporate IP主導であっても、中長期的には知財・技術・事業の境界をまたぐ情報活用の一部へ組み込まれる可能性があります。 30

> 短い抜粋: “days or months now take just hours.”
> Patlytics側が示す、最も重要な効果指標です。 14

主要一次情報URL

```
https://www.patlytics.ai/customer-stories/asahi-kasei
https://www.asahi-kasei.com/content/dam/asahi-kasei/jp/ja/innovation/intellectual-asset/pdf/ip-report2025.pdf
https://www.asahi-kasei.com/content/dam/asahi-kasei/jp/ja/ir/library/business/pdf/241213.pdf
https://www.patlytics.ai/
https://www.patlytics.ai/news/patlytics-secures-14-million-series-a-led-by-next47
```

利用形態・契約費用・技術運用インパクト

利用形態については、**SaaS型クラウド利用が最も有力**です。Patlyticsの公開セキュリティ文書は、同社のインフラが**secure cloud platforms**上で運用されること、クラウド型AIシステムに伴うデータプライバシー・保持・アクセス制御課題への対処を説明しています。さらに、保存時・転送時暗号化、顧客データ分離、24/7監視、APACを含むオンコール体制、SOC 2 Type 2 / ISO 27001 / ISO 42001という企業向け統制が示されています。旭化成向けにオンプレミス版が提供されたという公開情報は確認できないため、**少なくとも公開資料ベースではクラウドSaaS利用と解するのが自然**です。 31

ワークフロー上の変化は、かなり具体的です。Patlytics顧客事例によれば、旭化成は自社で独自取得した製品特徴情報を追加投入でき、Patlyticsがクロールした外部情報と組み合わせて、複数の経路からターゲット企業・製品へ到達しやすくなりました。この点は、単にAIに丸投げする方式ではなく、**社内知見と外部公開情報を重ねて探索面を広げる、半自動・人間主導の分析ワークフロー**へ移行したことを示します。知財部門の高スキル人材が単純探索から戦略判断へ時間を移せるようになった、というPatlyticsの説明もこの読みと整合します。 14

Patlytics側の製品体系を見ると、データ連携の考え方も見えてきます。公式サイトでは、Patent Vault を**issued patents, published applications, unpublished draft applications の system of record**と位置づけ、そこに分類・タグ付け・ワークスペース連携を重ねる構成を示しています。また、Workspace collaboration には**customizable access controls**があり、ファイル管理・レビュー・コメント・反復作業の共有ワークスペース化が今後の重点ロードマップとして示されています。ここから言えるのは、旭化成案件でも、Patlyticsは単独の検索ツールではなく、**案件管理・証拠整理・レビュー共有まで含む業務基盤**として使われている、またはそうした方向に向かっている可能性が高いということです。もっとも、旭化成固有の文書管理基盤やIPMS名は公開されていません。 32

ローカライズとカスタマイズについては、公開情報が限定的ながら重要です。Patlytics関係者のBill LaFontaine氏は、**日本語利用向けにプラットフォームを適応させ、旭化成実務家の入力を取り込んだ**と述べています。また、PatlyticsのJapan Market Leadは、**日本語でのドラフティング・分析機能**と日本語サポート体制を公表しています。これらは公式プレスリリースではないものの、Patlytics側の準公式・当事者発信として、少なくとも**日本語対応と一定の現場適応があった可能性**を強く示します。 33

セキュリティ面では、旭化成が**security was evaluated early and confirmed as meeting the company's requirements**とされる点が重要です。旭化成は知財情報を経営資源として重視し、中国での特許侵害訴訟の公表にもみられるように、権利活用・権利行使を実務上重視しています。そのため、Patlytics導入の成否は、性能だけでなく**未公開発明、将来のR&D戦略、訴訟・ライセンス方針を扱えるセキュアな動作環境**を満たせるかにかかっていたはずで、Patlyticsの公開セキュリティ仕様はそのニーズと整合します。 34

契約・費用については、公開情報はかなり薄いです。Patlyticsの公式サイトや顧客事例、セキュリティ文書、資金調達広報を確認しても、**旭化成向け契約額、ライセンス単価、最低ユーザー数、契約期間、PoC費用、導入支援費**は記載されていません。確認できる費用関連情報は、旭化成事例における**「1件の detection report で最低1,000〜5,000ドルの節約」**という効果表現と、Patlytics全体の顧客実績として**80%のプロジェクト時間削減、claim chart あたり30,000ドル超の節約**というベンダー公表値です。したがって、**公開情報ベースで費用を論じられるのはROIの一部だけで、価格そのものは非公開**です。 35

> 短い抜粋: "never used to train models."
> 機密データ保護に関するPatlyticsの最重要表現です。 36

主要一次情報URL

```
https://www.patlytics.ai/security
https://www.patlytics.ai/infringement-detection
https://www.patlytics.ai/news/patlytics-secures-14-million-series-a-led-by-next47
https://www.businesswire.com/news/home/20260408770722/en/Patlytics-Raises-%2440-Million-
Series-B-to-Expand-the-AI-Platform-Purpose-Built-for-IP-Work
https://www.asahi-kasei.com/news/2026/e260424
```

関連特許・論文・技術資料

本件に**直接**関係する公開特許や学術論文という意味では、公開確認できた材料は多くありません。少なくとも今回のレビューでは、**「旭化成×Patlytics」の共同出願、共同論文、共同技術発表**は確認できませんでした。したがって、本件の技術資料として重視すべきなのは、両社の共同研究成果ではなく、**旭化成側の知財・DX資料**と、**Patlytics側の製品・セキュリティ・ワークフロー資料**です。 37

旭化成側で特に重要なのは、知財報告書2025と無形資産戦略説明会資料です。知財報告書は、知財インテリジェンス室が**知財情報を経営判断や事業戦略に直結させる高度な分析と提言**を行うこと、知財部員や知財アナリストへの生成AI普及を進めていることを明示しています。また、2024年の国内特許出願は**659件**、外国特許出願は**263件（ファミリー単位）**とされており、旭化成が大規模な特許ポートフォリオを継続的に運営していることが分かります。こうした規模感は、侵害調査やポートフォリオ分析の自動化需要を裏づけます。 38

さらに、旭化成は2026年4月に中国でのDuranol™関連特許侵害訴訟を公表し、2022年にも同種特許で広州知識産権法院に提訴して有利な最終判決を得たと説明しています。これは、旭化成が**実際に国際的な権利行使を行うプレイヤー**であることの公式証拠であり、Patlyticsのような evidence-of-use / infringement 分析基盤を必要とする背景事情として重要です。Patlytics顧客事例が、旭化成の案件を**cross-jurisdictional matters**と結びつけているのも、この実務背景と整合しています。 39

Patlytics側の技術資料としては、製品トップページ、侵害検知ページ、FTO解説、セキュリティ文書が有用です。そこからは、Patlyticsが**130M+ patents と 300M+ literature**を扱う探索基盤、claim charting、FTO、invalidity、Patent Vault、分類・タグ付け、ワークスペース制御を持つこと、日本・中国・欧州・韓国・PCT

まで含むジャーリスディクション対応を進めていることが読み取れます。特にFTO解説で日本（JP）が明示されている点は、日本企業である旭化成との整合性が高い要素です。 40

公開学術論文については、Patlytics公式はNPL（非特許文献）分析や技術資料解析能力を説明していますが、**旭化成案件の共同研究成果としての学術発表**は確認できませんでした。そのため、ここで言う「関連論文」は、Patlyticsが扱う対象データとしてのNPLであって、旭化成導入そのものを論じる査読論文ではありません。これは、法務・知財SaaS導入案件としてはむしろ一般的な形です。 41

主要一次情報URL

```
https://www.asahi-kasei.com/content/dam/asahi-kasei/jp/ja/innovation/intellectual-asset/pdf/
ip-report2025.pdf
https://www.asahi-kasei.com/content/dam/asahi-kasei/jp/ja/ir/library/business/pdf/241213.pdf
https://www.asahi-kasei.com/news/2026/e260424
https://www.patlytics.ai/
https://www.patlytics.ai/infringement-detection
https://www.patlytics.ai/blog/how-patlytics-quickly-and-affordably-automates-freedom-to-
operate-fto-analysis
```

第三者評価・リスク・今後の展望

第三者評価としては、まず**Patlyticsそのものへの市場評価が強い**ことが確認できます。TechCrunchは2024年にPatlyticsを知財保護ワークフローを加速するAIスタートアップとして取り上げ、LawSitesは2025年Series Aを、Business Insiderは2026年に**注目すべきLegal AIスタートアップ**の一社としてPatlyticsを挙げています。さらに、投資家N47は、Patlyticsの強みを「breadth and depth of their AI-native platform」と表現しており、侵害検知から起案・ポートフォリオ管理までの一体性を評価しています。これは、Patlyticsが単一機能の点ツールではなく、**特許業務の統合プラットフォーム**として見られていることを示します。 42

旭化成案件そのものに対する業界反応は、主としてLinkedIn上で確認できます。Patlytics公式投稿は、旭化成案件を**日本とアジアにおける意思決定高速化の実例**として打ち出しました。Joshua Marcus氏やBill LaFontaine氏は、この案件を**グローバル企業におけるAI知財運用の青写真**として評価し、とくにBill氏は、日本語利用向けの適応や旭化成実務家のフィードバック反映を強調しています。企業向け知財AIでは、単に精度が高いだけでなく、**現場用語・文脈・言語・審査実務**に合わせて調整できることが採用の成否を左右するため、この点は重要です。 43

日本市場での反応という観点では、Patlyticsが2026年に日本市場責任者を掲げ、**Canon、Asahi Kasei、Nissan、Panasonic**などを日本ユーザー基盤として挙げている点も示唆的です。さらにPatlyticsは、Canonの真竹秀樹氏をアドバイザリーボードに迎えた日本語併記の公式発表で、特許訴訟支援、ライセンス戦略、ポートフォリオ最適化を各国大企業向けに高度化していく姿勢を示しました。これは、旭化成案件が孤立した一件ではなく、**日本の大企業知財部門を開拓する文脈**の中に置かれていることを示します。 44

一方で、**主要日本語ニュース・業界メディアで旭化成×Patlytics案件そのものを詳報した記事は、本調査では多く確認できませんでした**。この点は重要で、案件の公開重心は、現時点では日本の大手メディア報道よりも、**ベンダー一次情報とSNS発信**にあります。したがって、本件の評価を行う際は、情報ソースがベンダー寄りであることを織り込む必要があります。 45

リスクと課題は、少なくとも四つあります。第一に、**ベンダー公表KPIへの依存**です。時間短縮やコスト削減は魅力的ですが、第三者監査済みの定量公表ではありません。第二に、**AI分析に伴う誤検知・見落とし・説明責任**の問題です。Patlytics自身も、citation-backed outputs、source auditing、confidence indicators で

ハルシネーション抑制を訴求しており、これは裏返せば、法的に重要な判断で完全自動化が難しいことを示します。第三に、**クラウド上での機密知財データ管理**です。Patlyticsは強いセキュリティ統制を示していますが、未公開発明や訴訟戦略を扱う以上、企業側のデータ分類・権限設計・削除統制は不可欠です。第四に、**化学・バイオ特許など高難度領域の評価精度**です。Patlytics顧客事例でも、旭化成は化学分野を特に難しいと位置づけており、Patlytics側もSeries Bでchem-bio機能強化を次の重点としています。これは、現時点でなお改善余地があることの間接証拠でもあります。 46

今後の展望は前向きです。Patlyticsはロードマップとして、**共有コラボレーションスイート、AIエージェント、chem-bio強化**を掲げています。旭化成はマテリアルとヘルスケアを大きな柱に持ち、生成AI活用を全社で進め、知財情報と経営判断の統合をさらに深める方針を明示しています。したがって、中期的には、Patlytics活用が**侵害調査限定ツールから、FTO、ポートフォリオ最適化、発明開示、起案補助、対外ライセンス戦略支援**へ広がる可能性があります。もっとも、ここでも公開確認済みなのは「検討・探索・ロードマップ」であり、旭化成がそれら全機能を既に本番導入済みだとまでは言えません。 47

未確認・不明点

以下は、今回の公開調査では**確認できなかった、または断定できない点**です。これらは重要なので、明確に切り分けておきます。

- **旭化成側の名指し公式プレスリリースの有無**
  本調査で確認した旭化成のニュースアーカイブ、知財ページ、DXページ、知財報告書では Patlytics 名の明示を確認できませんでした。存在しないと断定するのではなく、**今回確認した公開範囲では未確認**という整理です。 48

- **契約締結日・本稼働日・PoC開始日**
  公開確認できるのは、2025年の日本市場参入示唆、2026年初ごろの顧客事例公開、2026年4月のSeries B本文での顧客明示までです。厳密な開始日は不明です。 49

- **契約額・席数・期間・SLA・価格体系**
  顧客事例・セキュリティ資料・資金調達資料のいずれにも、旭化成案件の商流条件は記載されていません。 50

- **オンプレミスか、クラウドSaaSかの案件固有確定**
  Patlytics全体としてはクラウド前提が強く示されますが、旭化成契約における個別アーキテクチャは未公開です。 51

- **連携システムの実名**
  既存のIPMS、ドケッティング、DMS、ERP、ID管理などと何をつないでいるかは不明です。PatlyticsはVaultやWorkspaceを示しますが、旭化成側の連携先名称は公開されていません。 52

- **R&D部門やマーケティング部門でのPatlytics本番利用**
  旭化成の全社生成AI活用は公式に確認できますが、Patlytics事例として公開されているのはCorporate IPの侵害調査中心です。 53

- **本件に直接結びつく共同特許・共同論文**
  今回の公開検索では確認できませんでした。特許DBの探索は補完的に実施しましたが、公開で結びつく成果物は未確認です。 54

主要一次情報URL

```
https://www.linkedin.com/posts/amir-bahrami-36b947116_legaltech-patentlaw-intellectualproperty-activity-7467616361180057600-dJt-
https://www.patlytics.ai/news/patlytics-welcomes-hideki-sanatake-to-advisory-board
https://techcrunch.com/2024/04/11/googles-gradient-backs-patytics-to-help-companies-protect-their-intellectual-property/
https://www.lawnext.com/2025/02/ai-powered-patent-platform-patlytics-raises-14m-series-a-round.html
https://www.businessinsider.com/legal-tech-ai-startups-investors-funding-2026-7
```

---

1 2 3 6 8 10 13 14 26 28 34 35 46 50 Asahi Kasei + Patlytics | Customer Story
https://www.patlytics.ai/customer-stories/asahi-kasei

4 36 41 Data Security and Protection at Patlytics
https://www.patlytics.ai/security

5 40 Patlytics • Premier AI-Powered Patent Intelligence
https://www.patlytics.ai/

7 54 Japan Platform for Patent Information｜J-PlatPat [JPP]
https://www.j-platpat.inpit.go.jp/?uri=%2Fs0000%2Fen&utm_source=chatgpt.com

9 24 知的財産組織の活動 | 旭化成株式会社
https://www.asahi-kasei.com/jp/innovation/intellectual-asset

11 48 News 2026
https://www.asahi-kasei.com/news/2026?utm_source=chatgpt.com

12 22 27 43 45 Asahi Kasei Partners with Patlytics for Streamlined Patent Workflows | Patlytics posted on the topic | LinkedIn
https://www.linkedin.com/posts/patlytics_we-are-proud-to-share-that-asahi-kasei-has-activity-7414770700973957120-NXsg

15 29 37 38 asahi-kasei.com
https://www.asahi-kasei.com/content/dam/asahi-kasei/jp/ja/innovation/intellectual-asset/pdf/ip-report2025.pdf

16 42 Google's Gradient backs Patlytics to help companies protect their intellectual property | TechCrunch
https://techcrunch.com/2024/04/11/googles-gradient-backs-patytics-to-help-companies-protect-their-intellectual-property/

17 Patlytics Announces New Company Momentum for its GenAI-Powered Patent Intelligence Platform
https://www.prnewswire.com/news-releases/patlytics-announces-new-company-momentum-for-its-genai-powered-patent-intelligence-platform-302309167.html

18 53 生成AIを新規用途探索の自動化や製造現場の技術伝承において活用開始
https://www.asahi-kasei.com/jp/news/2024/ze241209

19 Patlytics Secures $14 Million Series A Led By Next47 • Patlytics
https://www.patlytics.ai/news/patlytics-secures-14-million-series-a-led-by-next47

20 AI-Powered Patent Platform Patlytics Raises $14M Series A Round | LawSites
https://www.lawnext.com/2025/02/ai-powered-patent-platform-patlytics-raises-14m-series-a-round.html

21 44 49 #legaltech #patentlaw #intellectualproperty | Amir Bahrami | 10 comments
https://www.linkedin.com/posts/amir-bahrami-36b947116_legaltech-patentlaw-intellectualproperty-activity-7467616361180057600-dJt-

23 47 Patlytics Raises $40 Million Series B to Expand the AI Platform Purpose-Built for IP Work
https://www.businesswire.com/news/home/20260408770722/en/Patlytics-Raises-%2440-Million-Series-B-to-Expand-the-AI-Platform-Purpose-Built-for-IP-Work

25 13 Legal AI Startups to Watch in 2026, According to Investors - Business Insider
https://www.businessinsider.com/legal-tech-ai-startups-investors-funding-2026-7

30 asahi-kasei.com
https://www.asahi-kasei.com/content/dam/asahi-kasei/jp/ja/ir/library/business/pdf/241213.pdf

31 51 Data Security and Protection at Patlytics
https://www.patlytics.ai/security?utm_source=chatgpt.com

32 52 Patent Infringement Detection Software | Patlytics
https://www.patlytics.ai/infringement-detection

33 Asahi Kasei Accelerates Patent Investigations with Patlytics | Bill LaFontaine posted on the topic | LinkedIn
https://www.linkedin.com/posts/bill-lafontaine-92514a7_asahi-kasei-patlytics-customer-story-activity-7416579964906442752-Hcvi

39 Asahi Kasei filed litigation for infringement of patent rights of Duranol™ in China | Asahi Kasei
https://www.asahi-kasei.com/news/2026/e260424